

3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当グループ(当社及び連結子会社)の対処すべき課題について重要な変更はありません。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

5 【研究開発活動】

当グループの研究開発活動は、当社、連結子会社コスモ石油ルブリカンツ(株)及び連結子会社(株)コスモ石油技術研究所で実施しております。当社及び(株)コスモ石油技術研究所は、石油製品・石油精製プロセス触媒の研究及び新エネルギーや環境対応技術の研究を行っております。コスモ石油ルブリカンツ(株)は、環境対応技術確立の為に研究に取り組むとともに、消費者のニーズに応える潤滑油関係の商品開発等を引き続き行っております。

以下に当中間連結会計期間の主要な研究概要を記載いたします。

石油事業

当社及び(株)コスモ石油技術研究所は、石油製品技術では硫黄分 50ppm 軽油供給に対応すべく燃料油処方を各製油所別に確立しました。石油精製プロセス触媒技術では、硫黄分 50ppm 軽油の製造が可能な触媒を自社開発し当社堺製油所装置に充填し運転開始しました。さらに高性能な触媒を NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)―PEC(石油産業活性化センター)事業に参画して開発しております。今後、製油所での実用化に向けた取り組みを継続していきます。また、新エネルギー分野では引き続き天然ガスから灯油や軽油のような液体燃料を製造する GTL(Gas To Liquid) 技術の研究開発プロジェクトに参画し、当連結会計年度からパイロットによる実用化を開始する予定です。GTL 技術で製造された合成油は、硫黄や窒素などを含有しないクリーンな液体燃料であることから、環境面から期待も大きいものです。環境対応技術では、排水処理施設から発生する余剰汚泥減容化の技術開発に取り組んでおり、当中間連結会計期間から当社坂出製油所にて実証化運転を行い余剰汚泥の 50%減容化を達成しました。

コスモ石油ルブリカンツ(株)では、商品研究所において環境対応を中心に研究開発に取り組んでおります。2003 年度よりディーゼル排出ガス規制が順次強化され、ディーゼル車に DPF 等の各種後処理装置が装着される予定であります。現在これらに対応するディーゼルエンジン油の開発に取り組むとともに、省燃費・省資源のための研究を実施しています。

また、精製コスト削減等の一層の合理化を目指した研究開発活動も実施しています。

なお、研究開発費の合計は、1,693 百万円であります。